

1 単元名 物語を書こう

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「お話作り」を位置付けた。したがって、本単元でねらう「B(2)ア身近なこと、想像したことなどを元に物語を書く」(書くこと)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

3 単元について

(1) 児童生徒観

本学級の児童は男子19名、女子19名、計38名である。低学年の頃から、読書にはよく取り組み物語などを楽しんで読んでいる。国語に関するアンケート調査の結果以下の通りである。

物語の創作については、78%の児童が物語を作りたいと答えている。その理由については、「楽しそう」や「おもしろそう」など、普段の読書活動の中から物語を楽しんでいる様子が窺え、創作に対する興味関心が高いことがわかる。書いてみたい物語については、おもしろい本やぼうけん、怪談ものなどがあげられている。

国語に関するアンケート調査

(平成24年10月17日36名実施)

- 1 読書は好きですか。 すき *% あまり好きではない *% きらい *%
- 2 今までに読んだ本の中で、おもしろかった本はどんな本ですか。(複数回答)
忍たま乱太郎・セブンスター・かいけつゾロリ・保健室のねむりひめ・0マン・ヘレンケラーのろいのレストラン・シャーロックホームズのぼうけん などの物語類
ライオン・ペンギン などの自然科学類
- 3 「エルマーのぼうけん」のようなお話は好きですか。
すき *% あまり好きではない *% きらい *%
- 4 お話(物語)を自分で作ってみたいですか。 はい *% いいえ *%
<その理由>
(アについて) お話を作るのが好きだから。楽しそうだから。おもしろそうだから作ってみたい。
(イについて) 苦手。大変そうだから。言葉がうかばない。わからない。
- 5 お話を書くとしたら、どんなお話を書いてみたいですか。(主な回答)
・おもしろい話やぼうけん ・会談レストランのような本 ・楽しい話 ・ファンタジー
・こわい話 ・ゾロリのような旅の話

(2) 教材観

児童は2年生の時に、順序を整理して簡単な構成を考えて書くことを学習してきた。本単元では、物語の構成を学び、自分で登場人物や設定を考えて、物語を書く学習を行う。冒険物語は、ファンタジーに比べて設定が容易で、ストーリー展開に起伏をつけやすい。中学年は、児童が活発に活動する時期であり、読書の傾向も、低学年で親しんできた絵本から少し長い物語へ広がっていくときである。この時期にストーリーの面白さや楽しさを味わうだけでなく、物語を書くことを通して、物語の興味関心を更に高められるよう、楽しく物語を書くという言語活動を行っていききたい。物語を書くことについては、低学年で想像したことなどから登場人物を決め、簡単なお話を書くことを経験している。物語は、主人公やその他の登場人物がそれぞれの役割をもっていること、フィクション(虚構)の世界が物語られていること、冒頭部に状況や登場人物が設定され、事件と解決が繰り返され発端から結末へと至る事件展開によって構成されていることなど、特徴をもっている。中学年は、このような特徴を意識しながら、創造的な表現をすることが求められる。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まず物語の創作に必要な「想像力」「創造力」をマッピング・KJ法などを利用し物語の素材を集め、創造力を養う支援をしていきたい。また、日頃の読書体験によって、発想や書く量、表現の仕方に児童の個人差が大きく見られる。読書があまり好きでない児童にとっても、物語を作る楽しさから読書への興味関心を喚起させる機会となるよう、具体的なモデル文を提示したり、取材や構成・記述などの各段階において、友達と交流したりする中で、自分の物語のイメージをもてるよう支援したい。

また、完成した物語を児童が相互に読み合い、感想を述べ合うなどの交流の場をあらかじめ設定することで、読む相手を意識しながら楽しんで書く意欲につなげるようにしていきたいと考える。また、完成した物語は、1冊の本に完成させ、できたお話を下学年の児童に読んで聞かせるという交流学習を設定することで目的意識・相手意識を明確にもたせながら学習活動に取り組めるようにしていきたい。

4 単元の目標

- 物語に興味をもち、想像を広げたり友達と交流したりしながら楽しんで物語を書こうとする。(関心・意欲・態度)
- 経験したことや想像したことなどから物語の題材を決め、物語を書くうえで必要な事柄を集めることができる。(書くこと)
- 民話や昔話の組立ての型を理解し、それを使って文章の組立てを考えながら構成することができる。(書くこと)
- 場面の様子や人物の気持ちを詳しく書いたり、会話文を入れたりして書くことができる。(書くこと)
- 句読点を適切に打ち、段落の始めや会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・想像を広げたり，友達と交流したりしながら，楽しんで物語を書こうとしている。	・場面の様子や人物の気持ちを詳しく書いたり，会話文を入れたりしている。 ・文章の間違いを正したり，よりよい表現に書き直したりしている。 ・書いた物語を読み合い，互いのよさを中心に感想を交流している。	・句読点を適切に打ち，段落の始めや会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書いている。

6 単元の指導計画（9時間扱い）

時	主 な 学 習 活 動	主な評価
1	○宝島の地図を基にして，物語を書くための学習計画を立てる。 ○宝島の地図を見ながら，どんなルートで宝物をさがすのか，想像を広げる。 ＜学習計画を立てる＞	・地図をもとに想像を広げ，お話を作ること に意欲をもって取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)
2	○「エルマーのぼうけん」などから，エルマーの作戦や表現の工夫を見つける。 ○主人公や登場人物の性格や特徴，事件に出会ったときの作戦を考え，物語の構成を考える。 ＜構成や表現の工夫をとらえる:取材＞	・モデル文を参考に，お話作りの構成について考えている。 (書く能力)
3	○宝島の地図から想像を膨らませて構成メモを書く。 ○地図を基に主人公が通る道順を考えながら，出会う動物を決める。動物と出会ったときの出来事や主人公の作った作戦を考える。 ＜取材メモを書く:構成＞	・想像を広げたり，友達と交流したりしながら楽しんで物語を書こうとしている。 (関心・意欲・態度)
4 5 6 本時	○構成メモをもとに冒険物語を書く。 ○はじめ—中—終わりに書くことを中心をはっきりさせ，表現を工夫して書く。 ○主語・述語をはっきりさせ，修飾語，接続語などを使って書く。 ＜構成メモをもとに物語を書く:記述・推敲＞	・構成メモをもとに，文章の組立てに注意しながら，物語を書いている。(書く能力) ・人物の行動や会話を取り入れ，想像した場面の様子を分かりやすく，文章に書いている。(書く能力) ・句読点を適切に打ち，段落の始めや会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書いている。(言語についての知識・理解・技能)
7	○推敲をもとに，清書をして物語を完成させる。	・文章の間違いを正したり，よりよい表現に書き直したりしている。(書く能力)
8	○物語を読み合い，構成や表現で工夫しているところを伝え合う。 ＜相互交流活動①＞	・書いた物語を読み合い，互いのよさを中心に感想を交流している。(書く能力)
9	○下学年児童に自分の作った物語を読んで聞かせ，交流活動を楽しむ。 ＜相互交流活動②＞	・お話を下学年に聞かせ，交流活動を楽しもうとしている。 (関心・意欲・態度)

6 本時の学習

(1) 目標

- 構成メモをもとに文章の組立てに注意しながら，冒険の物語を書くことができる。(書くこと イ)

(2) 準備・資料

構成メモ・モデル文・表現語彙リスト・物語の構成図（拡大資料）・付箋紙・国語辞典

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
1 本時の学習課題をつかむ。 【一斉】 組み立てメモをもとに，物語のクライマックス（宝物を見つけたところ）を書こう。 ・今までの活動をふり振り返り，表現のよかった文（会話	○構成メモを基に，宝探しの旅（はじまり）から，事件・展開（なか）を記述し，いよいよクライマックス（宝探しの終わり）を書くことを確認し，興味関心を高める。 ○よく書けている児童の構成メモを参考に，どのように書いたらよいのかを確かめる。

文・擬態語・擬音語・色彩語・比喻・情景・心情描写 など)、や児童の文章の効果的な表現を紹介する。

2 物語を書く。【個別】

- ア 200字～400字程度で書く。
・数種類の用紙から選択する。
(A 200字 B 400字 C 罫線)
イ 書き出しを工夫する。
・モデル文を掲示する。
ウ 条件を示す。
・会話文を必ず入れること。
・最後の文章を工夫する。
エ 早く終わった児童は、物語の題名を決める。

3 書いた文章を読み合い、文章表現のよいところを見つたり、間違いを直したりするなど、よりよい表現に書き直す。【グループにおける交流活動】

ア <読み返すときの視点：青>

- ・文章の表現のよかったところ
- ・おもしろかったところ
- ・まねをしたいと思ったところ

イ <読み返すときの視点：ピンク>

- ・間違えた漢字はないか。
- ・句読点(、)や(。)は正しく使われているか
- ・主語と述語はあっているか。
- ・まとめごとにも書けているか。

4 友達からの意見やアドバイスを読んで、自分の文章をもう一度見直し、書き直す。【個別】

・やっとお城につきました。そこには、たくさんの宝物がいっぱいありました。かおるとゆうきは、とてもよろこびました。そして、その宝物を持って帰り、楽しくくらししました。

・〇〇さんのアドバイスで、文章がとてもよくなりました。
・宝物を見つけたところがよく書けていると言ってもらってとてもうれしかったです。

5 本時の学習を振り返る。【個別・全体】

- (1) 本時の学習を振り返り、自己評価カードに記入する。
(2) 次時の学習を知る。

物語を清書し、お話の本を作ろう。

○掲示してある表現語彙や友達のよい表現について確かめ、言葉のイメージを広げられるようにする。

○どんな場面でどんな言葉や表現を使ったらよいのか、具体的な場面から紹介し、書く時の参考にできるよう助言する。

○場面の様子や人物の様子がよく伝わるように、文章の中に会話文を入れたり、聞こえる音やにおいなど、五感をはたかせた表現を工夫して入れたりしていくと、物語が生き生きとしてくことを伝える。

書くこと

構成メモをもとに、文章の組立てに注意しながら、物語を書いている。(作品・観察)

○構成メモを見ながら、文章を書いていくように助言する。なかなか、文章が思いつかない児童には、構成メモに書いたことや付箋紙に書いたことを直接原稿用紙に書き込むように助言する。

○書くことの創作は、書く量や速さ、内容等に個人差が出てくる。あらかじめ時間と条件を設定しておき、時間内に書ける児童にはさらに文章を書くように助言する。

○文と文がスムーズにつながらない児童やどのように書いていいかわからない児童には、机間指導を行い、構成メモを活かしながら、具体的な書き方を示したり、書き方のヒントを与えたりする。

○漢字を正しく使ったり、言葉の使い方に注意を払ったりさせるために、国語辞典をいつでも使えるように準備しておく。

○グループで書いた文章を読み合い、よくかけている表現や文章、言葉(語句)や漢字の間違い表現のおかしいところやなどを付箋紙に書きアドバイスをするように助言する。

表現のよいところ・・・青の付箋紙

表現や漢字の訂正・・・ピンクの付箋紙

○読み合う場合の視点を明確にして、間違いを正しく直すことができるようにする。

○グループにおける交流では、間違いの修正だけにならないように、表現のよかったところ(青の付箋紙)を必ず書いてあげるように指示しておく。

○友達からの意見・アドバイスを見直し、赤鉛筆で自分の原稿を書き直すようにする。

○数名の児童に、友達からのアドバイスで参考になったところや文章がよくなったところなどを発表してもらい、交流したよさを全体で確認できるようにする。

○自己評価カードで今日の学習をふり返る。

○次時では、物語の下書きを清書し、お話の題名を決めて、本を完成することを伝える。